

「サイクル・レガシー京都」

～～歴史と地域をつなぐ自転車博物館～～

設計趣旨

私の価値観や人生を大きく変えた、**高校三年間の自転車競技生活の集大成**として、**京都・嵐山を舞台とした「自転車博物館」**を設計しました。

展示では、誕生からの歴史、競技の仕組みや楽しさ、さらには福祉や環境との関わりまで、多方面から、広く自転車の価値・魅力を紹介します。

また、見て学ぶだけでなく、訪れる人達が、歴史ある風景や寺社、自然といった地域資源・魅力を発見しながら、**実際に嵐山を走って楽しむ体験型の観光コース**を設けており、まち全体を「屋外展示」として自転車で体感できる構成としています。これにより建物の枠を超え、**地域そのものを展示空間とする新しい学びの場**を実現します。

歴史と文化が色濃く残る日本有数の観光都市・京都に、現代的かつ環境に優しい「自転車」を融合させ、**伝統を未来へつなぐ新しい価値**が生まれます。

さらに、自転車を活用した移動に付加価値を与えることで、交通混雑や環境問題など、観光地特有の**地域課題**の解決にもつなげるほか、地域の子どもや高齢者、観光客など多様な人が関わる、**地域と人をつなぐ交流拠点**としても機能することを目指します。この博物館では、自転車が持つ「**競技・文化・環境・まちづくり**」の観点から、社会に新しい気づきや選択肢を提供し、単なる乗り物ではなく、**人と人、過去と未来、そして建築と街をつなぐ力を持った“文化”**であることを伝えます。



自転車の車輪をモチーフとしたシンボルを入口に設置

〈目的〉

- ・博物館として目立ち、幅広い人の興味を寄せられる
- ・自転車博物館ということを一目で理解できる

建物の屋根や敷地、車輪など、丸みを意識して設計

〈目的〉

- ・角張った建物よりも安心感や親しみやすさなどやわらかい印象を与えやすい



地域に根付いた暖かみのある施設として親しまれやすい

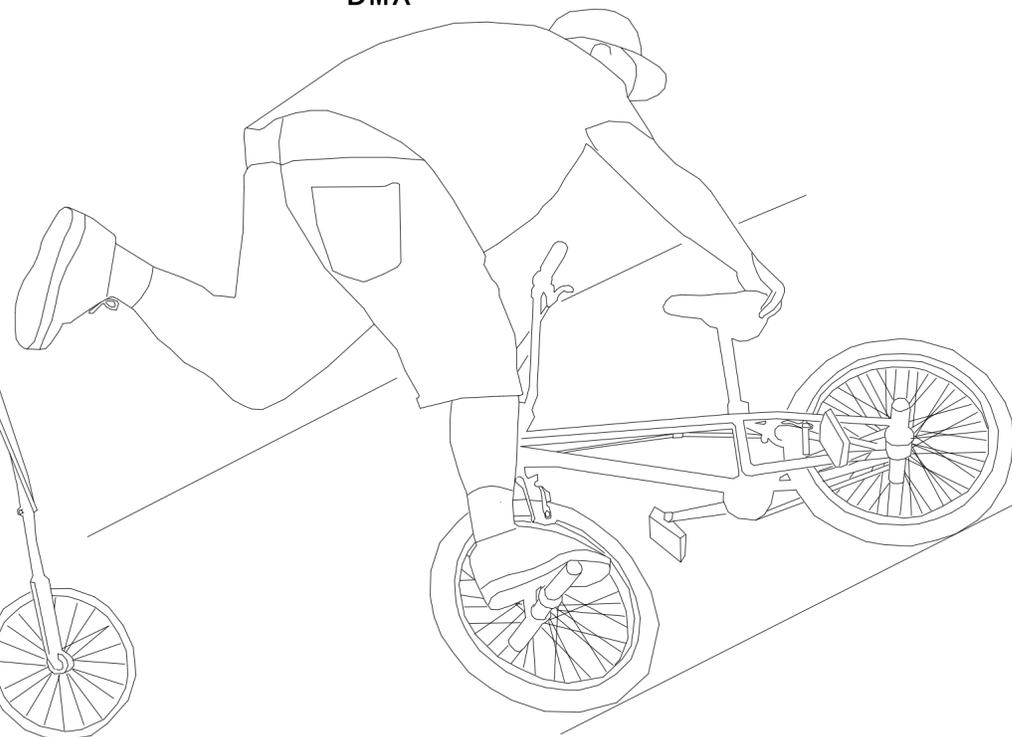
展示物一部紹介！

歴史コーナー

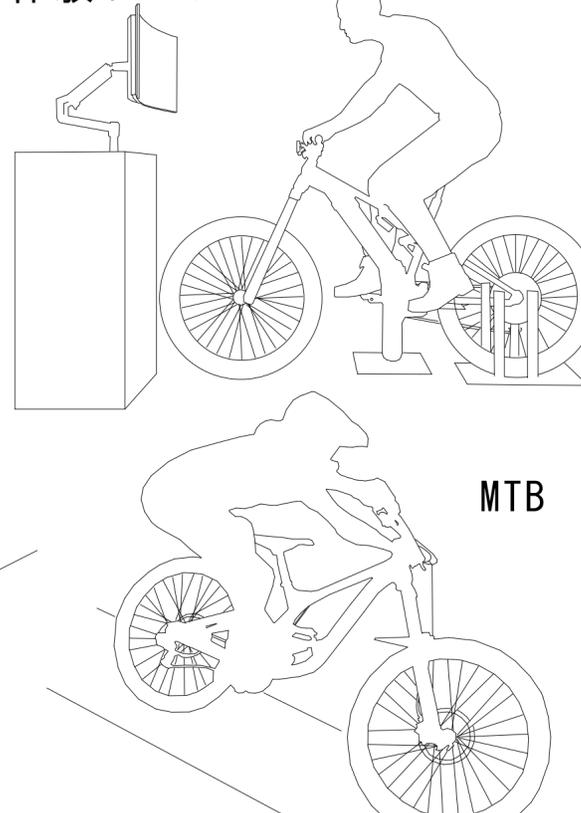


競技コーナー

BMX



体験ブース



MTB

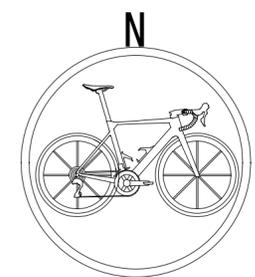
良好なアクセス

- ・公共交通機関であるJR嵯峨嵐山の近くに位置（電車でも来館しやすいよう西門を設置）
- ・丸太町通りの大通りに位置し、車や自転車を使って訪れる人も分かりやすい（大通りからすぐ入館できるように正門側に駐車場、駐輪場を設置）



周辺見取り図

※京都府京都市嵯峨嵐山付近



面積表

建築面積	2 3 7 0 m ²	建ぺい率	1 9 . 8 %
敷地面積	1 2 0 0 0 m ²	容積率	4 5 . 8 %
延べ面積	5 4 9 4 m ²		

1階フロア

～自転車の魅力を伝えよう～

サイクル・レガシー京都 1階では

自転車の魅力が伝わるような空間を実現。

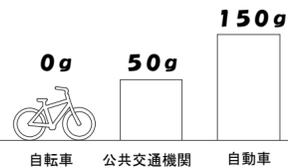
自転車の歴史や競技自転車をはじめとする様々な自転車を多くの人に

みて、ふれて、関心をもってもらうことを目的としたフロアになっている。

知識コーナー

自転車の利用

1km移動時のCO₂ 排出量



自動車から自転車に切り替えることで、1kmで年間約150gのCO₂を削減できます。

～自転車に乗ることで社会課題を解決！～

自転車通勤でCO₂削減



1日10km×週5日通勤
を一年間継続

年間約**500kg**
削減

ガソリン約200L分

※一般的な自動車による通勤と比べた場合

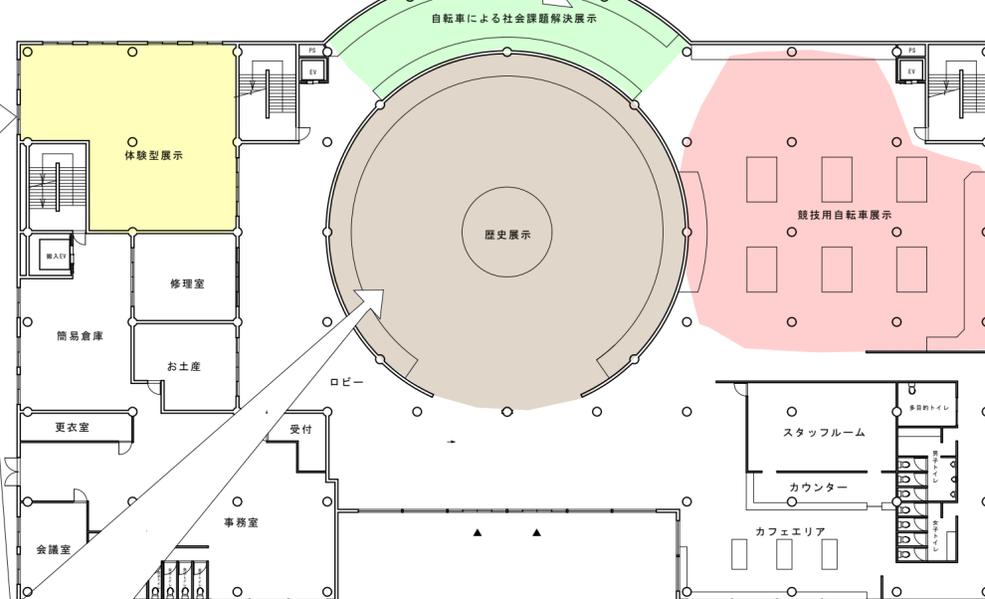
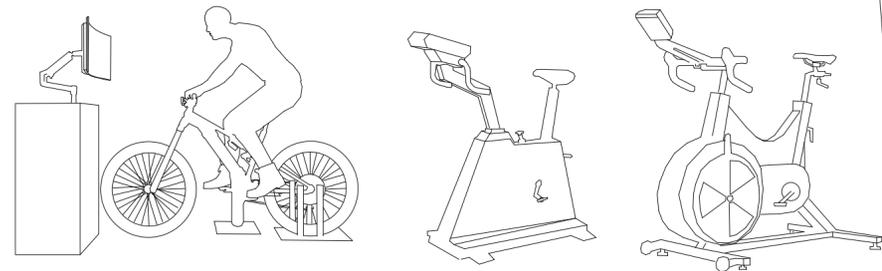
自転車は健康にも効果的。



定期的な自転車利用によって健康リスクの低下が示される

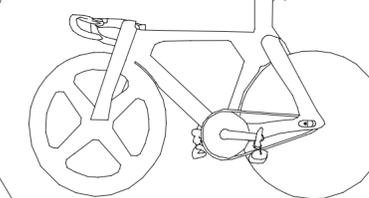
体験型展示 ～実際に乗ってみよう～

来館者が実際に自転車に触れて漕ぐことで自転車の構造や体の使い方を学べる展示です。ペダリングや姿勢の違いによる効率の変化を体感することで、自転車利用への理解を深めます。AIを用いた最新技術の体験からVRを使った没入型ライド体験、トレーニングバイクなど、楽しみながら様々な分野の自転車に室内で触れ合うことができます。

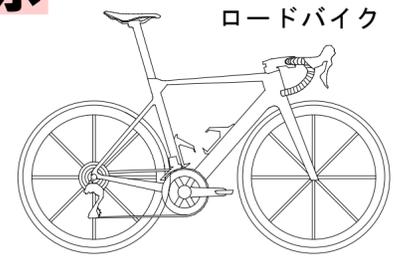


競技自転車展示

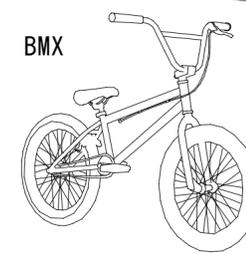
トラックバイク



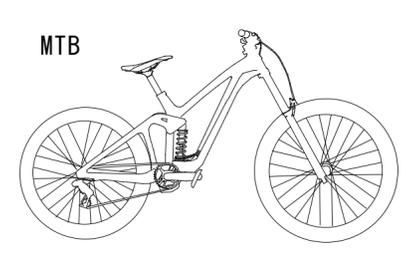
ロードバイク



BMX

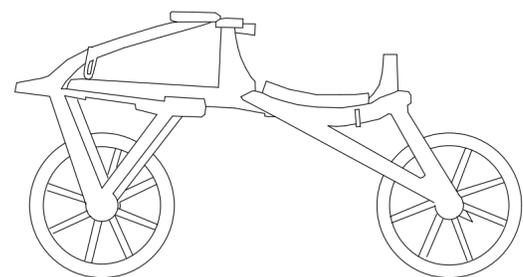


MTB



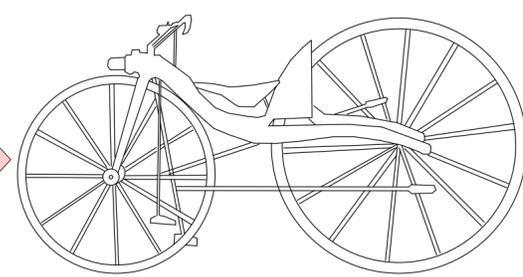
歴史展示 ～自転車の誕生から現在まで～

最初の発明！
ドライジーネ



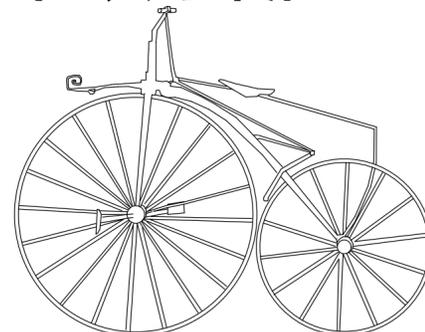
1813年、ドイツのカール・フォン・ドライス男爵がドライジーネを発明。(足蹴り式の二輪車) 現在ではこのドライジーネが自転車の発明といわれている。当時の記録として、ドライジーネは37kmを2時間30分で走った。

ペダルで漕ぐ！
ペロシペード(早足)



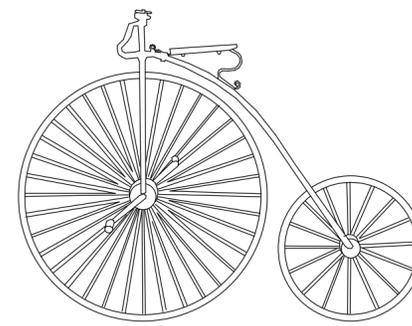
1839年スコットランドで鍛冶屋を営んでいたカークパトリック・マクミランが、家事の技術を利用して鉄製のペロシペードを発明。足蹴り方式からペダルを踏み込んで進む新しい方式を採用した。足蹴り方式と比較し、走行スピードは大幅に上昇した。ペロシペードはラテン語で早足を意味し、現在フランスでは自転車をペロと呼んでいる。

乗り心地最悪！
ボーンシェイカー



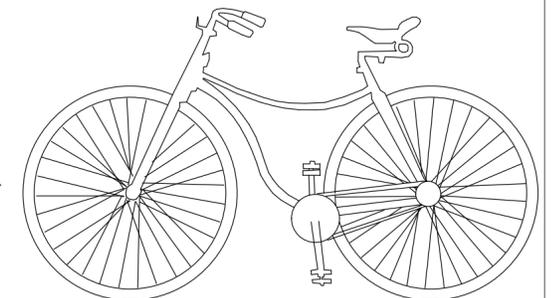
1863年、フランスのピエール・ラルマンがペロシペードを改良し、前輪にペダルとクランクを取り付けた。現在では子供が乗る三輪車と同じ駆動方式を発明した。量産化に成功し、1867年には一年間で約1000台を生産し、世に普及しました。乗り心地の悪さからイギリスではボーンシェイカー(骨揺り)と呼ばれています。

前輪が超BIGに！
オーティナリー



ペロシペードではペダルを一回転すると前車輪が一回転するので、速く走ろうとすると前車輪の直径を大きくしペダルの回転数の増加が必要。1870年頃になるとイギリスのジェームス・スタンレーが直径約1.5mに巨大化したオーティナリー(日本ではダルマ自転車)を発案。サドルの位置が高く、安定性も悪かったため、乗りこなすのに大変苦労していたそう。

近代自転車の確立！
セーフティバイシクル



1879年にイギリスのローソンが前ギアと後ろギアをチェーンで結ぶ駆動方式を発明。この方式を利用して1885年にジェームス・スタンレーの甥のジョン・ケンプ・スタンレーがローバー型安全自転車を発売。セーフティバイシクルと呼ばれ現在の自転車の原型となった。安全性、スピード、走行性能などどこをみても優れた自転車となった。

2階フロア

～マニアックな世界～

サイクル・レガシー京都2階では
自転車の競技別でマニアックな展示空間を実現

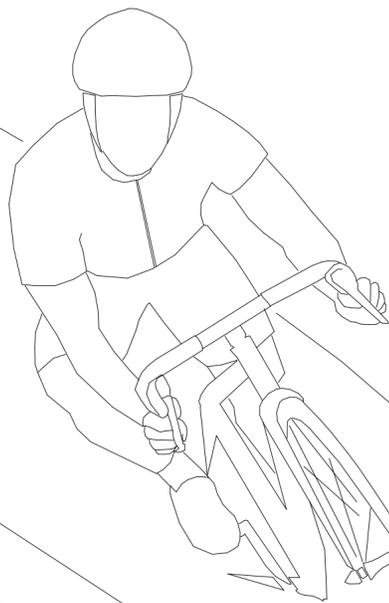
BMXブース

BMXは20インチ(普通の自転車27インチ)の
小さめの自転車を使う自転車競技。
短距離を全力で走るレースや、ジャンプや
回転などの技を競うフリースタイルがあります。
瞬発力やバランス感覚が求められ、
オリンピック種目になっています。



ロードバイクブース

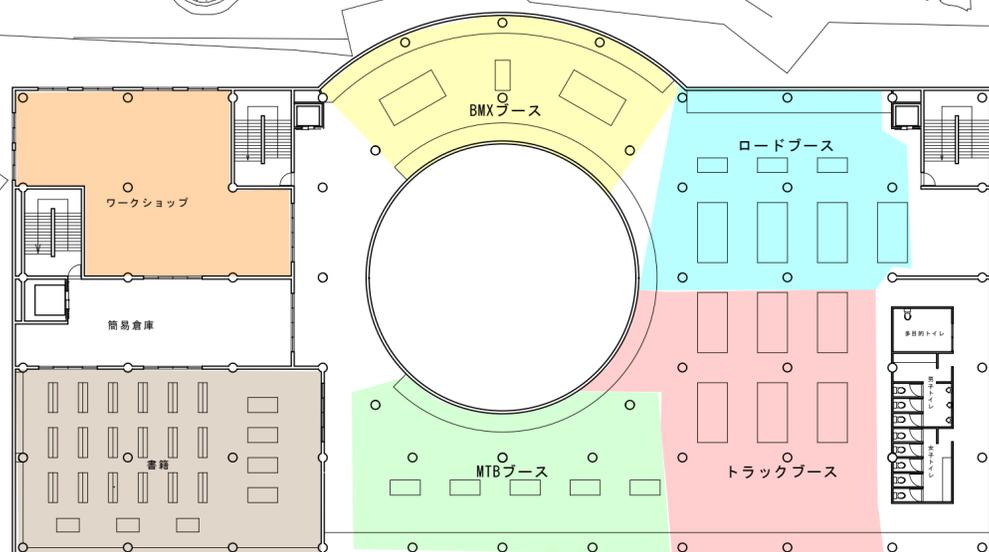
ロードバイクは舗装された道を速く長く走るための自転車で、
スピードと持久力を競う過酷な競技です。軽くて細いタイヤの
車体を使い、レースでは集団走行や駆け引きも重要になります。



ワークショップ

一般に貸し出しているエリア。多様な活動が可能。

- ・子供向けの自転車安全教室
- ・パンク修理などの簡単な整備体験
- ・正しい乗り方を学ぶ走行レッスン
- ・親子で参加できる自転車工作・分解
など使い方はいろいろ!

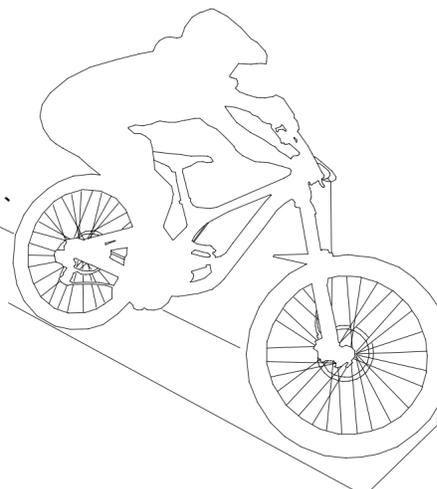


書籍コーナー

歴史を初め競技の事や雑誌など
世界中の自転車に関する本が
この部屋に集められています。

MTBブース

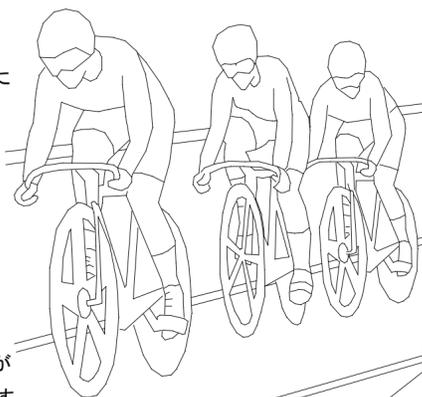
マウンテンバイクは山道や
未舗装路を走るために作られた
自転車です。道の悪い場所でも、
安定して走れるのが特徴です。
下りや長距離など、自然の中で
走破力を競います。



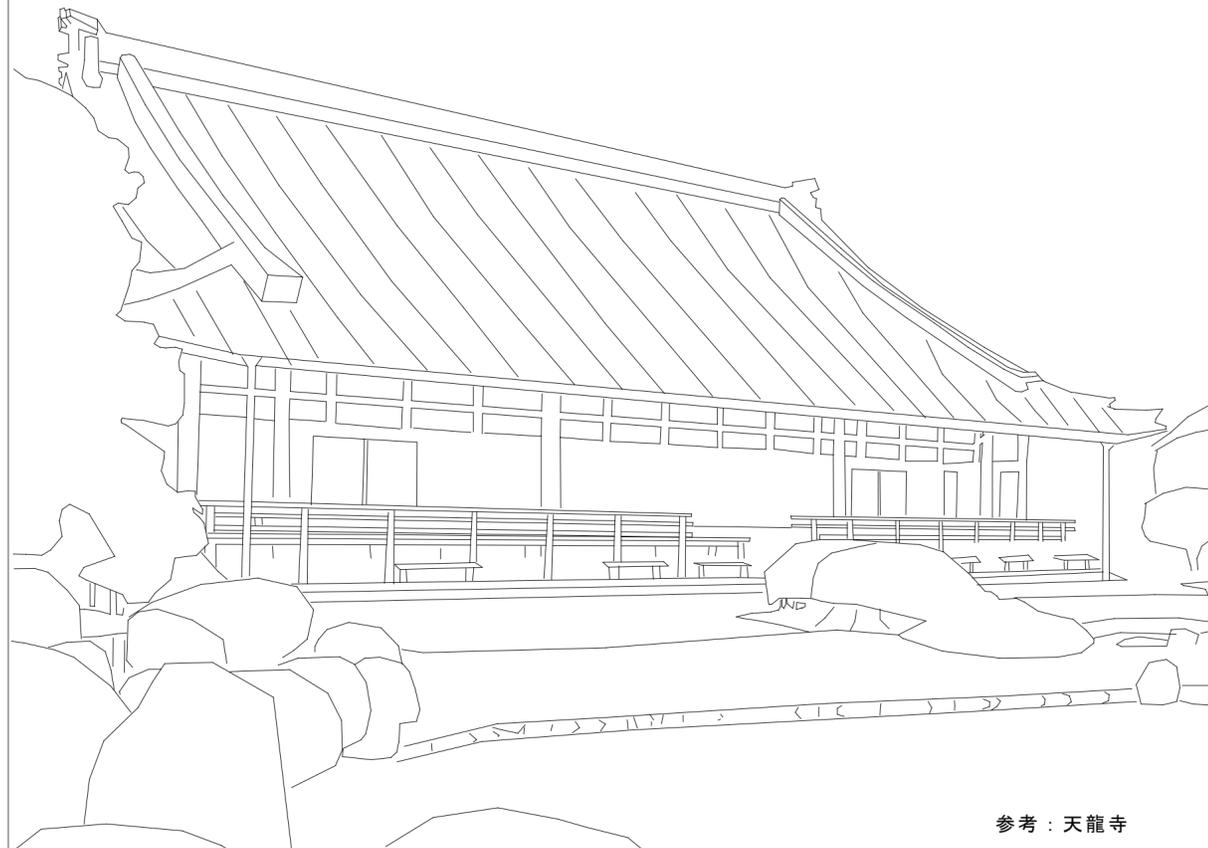
トラックブース

トラックバイクは軽くて剛性が高く、
スピードを最大限出せるための作り
になっています。トラックレースは
自転車専用の競技場で
行う自転車競技です。

短距離のスピード勝負から
持久力を競う種目まであります。
短いレース時間の中で選手同士の
激しい駆け引きを間近でみることが
醍醐味です。



屋外展示



参考：天龍寺

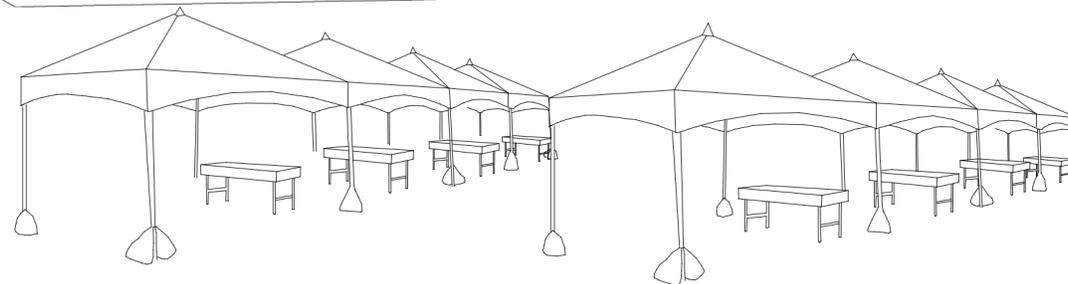
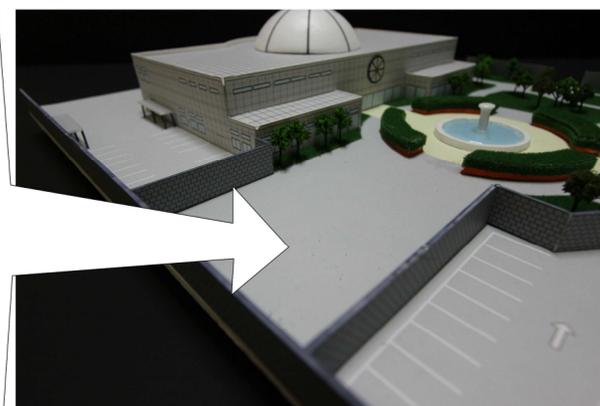
嵯峨嵐山には天龍寺を始め、多くの自然や、歴史建造物、街並みなどがある。
そういった風景や建物ををサイクル・レガシー京都を起点に、
自転車で巡ってもらうことで、館内だけでなく、京都全体を展示物としている。

イベントエリア

博物館の敷地にイベントができるスペースを確保。
自転車に関連する各企業がブースを開いたり、
お祭りなどを開催し、地域に根付いた
施設になることが目的。

レンタルサイクル

春から秋の晴れた日は、自転車のレンタル
なども行っている。
自転車で京都の街並みを巡ってもらうことが目的。



設計資料

